

5-1. まず初めに

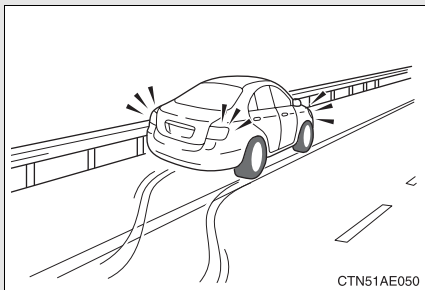
故障したときは.....	300
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	302
発炎筒.....	303
けん引について.....	305
フューエルポンプシャット オフシステム.....	310

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	311
パンクしたときは.....	318
エンジンがかからない ときは.....	331
セレクトレバーが シフトできないときは.....	334
キーを無くしたときは.....	335
アクセスキーが正常に 働かないときは.....	336
バッテリーが上がった ときは.....	340
オーバーヒートした ときは.....	344
スタックしたときは.....	346

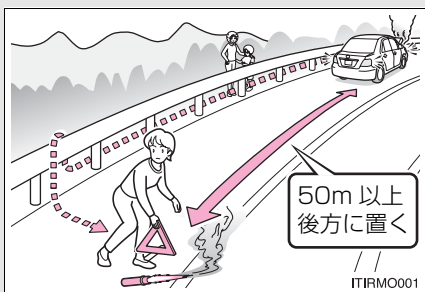
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。



非常点滅灯（ハザードランプ）（→P. 302）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯（ハザードランプ）は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

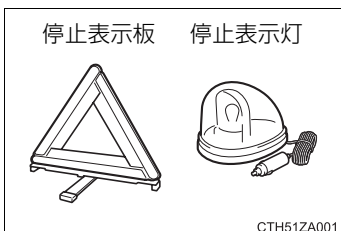


高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 303）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

 知識

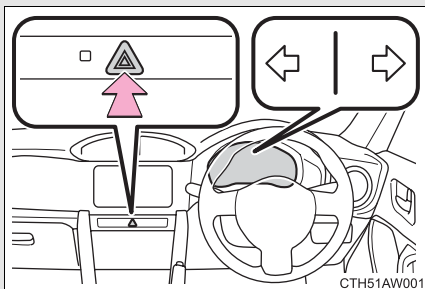
■ 停止表示板・停止表示灯について



- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。



スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

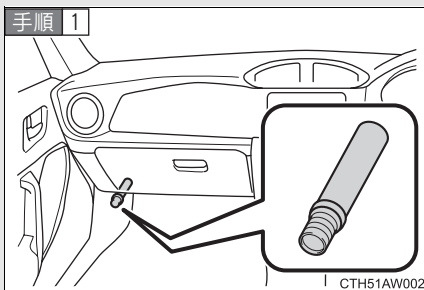
知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

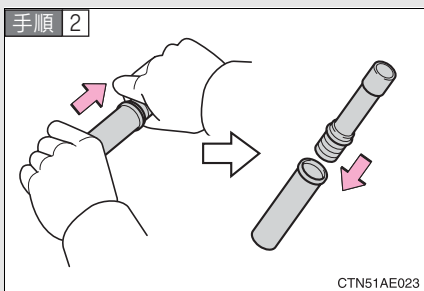
エンジン停止中に、非常点滅灯（ハザードランプ）を長時間使用すると、バッテリーが上がるおそれがあります。

5-1. まず初めに 発炎筒

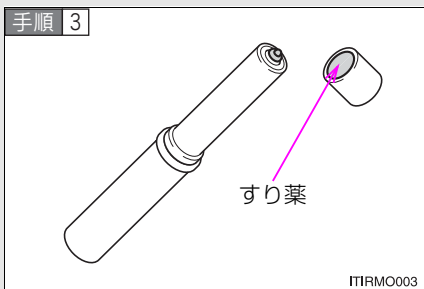
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯(ハザードランプ)と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む



先端のふたをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けしないでください。

 **知識**

■ **発炎筒の有効期限**

本体に表示してある有効期限が切れる前に、スバル販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告**

■ **発炎筒を使用してはいけない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ **発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

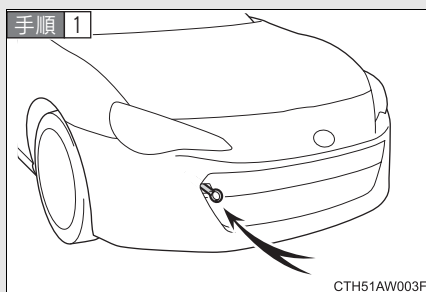
けん引は、できるだけスバル販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引される前に

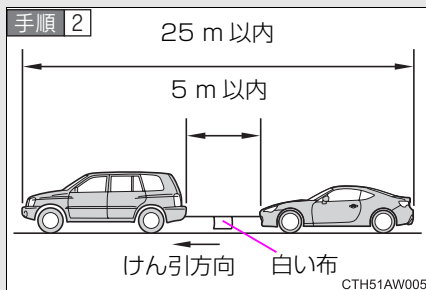
以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、スバル販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
前進方向でけん引してください。



ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm)
以上

手順 3 | けん引される車両のエンジンをかける

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外：

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしてください。

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車：

エンジンがかからないときは、プッシュエンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のセレクトレバーをN（オートマチック車）またはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にしてから、駐車ブレーキを解除する

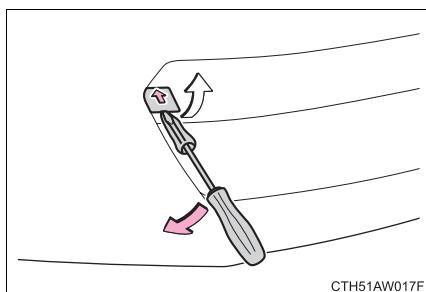
けん引中は、前の車の制動灯に注意しローブをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

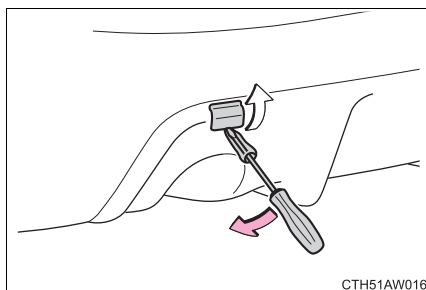
手順 1 マイナスドライバーを使ってふたをははずす

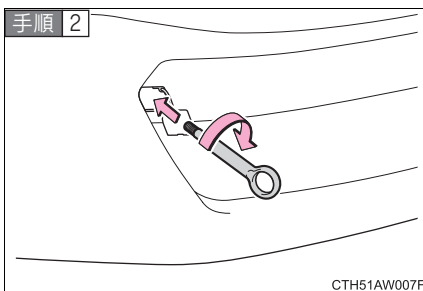
車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

フロント

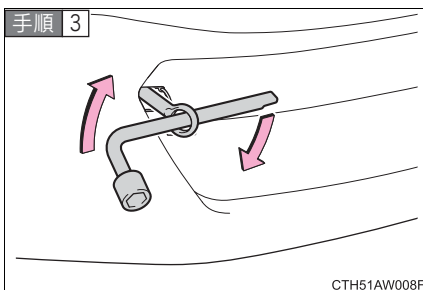


リヤ





けん引フックを穴に差しこみ軽くしめる

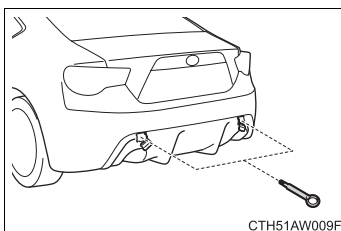


ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■ やむを得ず他車をけん引する場合

他車のけん引はしないでください。やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。



リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■ けん引フックの収納位置

→P. 319

 **警告**

■ **けん引中の運転について**

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチを OFF にしないでください。
キーレスアクセス&プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■ **けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **けん引されたあとは**

けん引フックは必ず取り外してください。そのままにしておくとも前面に衝撃を受けたとき SRS エアバッグが正常に作動しないことがあります。

 **注意****■ 車両の損傷を防ぐために**

- この車をけん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車で自車より重い他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジンが止まってしまったときおよび SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

手順 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

手順 1 プッシュエンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に


燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。



ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯 ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキシステムの異常 駐車ブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	チャージ警告灯 充電システムの異常
	オイルプレッシャー警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ステアリング制御警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・電動パワーステアリングの異常
	スリップ表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ・VSC (VDC) システムの異常 ・TRC システムの異常
	オートヘッドランプレベライザー警告灯 自動光軸調整システムの異常
 (15 秒間黄色点滅)	キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯★ キーレスアクセス&プッシュスタートの異常時に警告ブザーとともに 15 秒間黄色に点滅します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

■ ステアリング制御警告灯／警告ブザーについて

電圧が低い、または低下した場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

 **警告**





■ ステアリング制御警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 7 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト警告灯 (警告ブザー) * 運転席シートベルトの未着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト警告灯 (警告ブザー) * 助手席シートベルトの未着用	シートベルトを着用

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A/T OIL TEMP</div>	オートマチックトランスミッション油温警告灯★ トランスミッションフルードの温度異常	トランスミッションフルードを冷却するために、安全な場所に停車し、セレクトレバーをPに入れてエンジンをかけたままにする。 しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

※ **運転席・助手席シートベルト未着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト未着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後、運転席・助手席シートベルト未着用のまま 30 秒経過すると、警告ブザーが 90 秒間断続的に鳴ります。

 **知識**

■ **燃料残量警告灯について**

坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。



■ **助手席シートベルト警告灯の乗員検知センサーの作動について**




- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください(キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	 (黄色点滅)	キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯 オートマチック車： セレクトレバーがP以外の状態で、プッシュエンジンスイッチをOFFにせずにアクセスキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	<ul style="list-style-type: none"> ・セレクトレバーをPにする ・アクセスキーを車内にもどす
1回	3回	 (黄色点滅)	キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯 オートマチック車： セレクトレバーがPの状態で、プッシュエンジンスイッチをOFFにせずにアクセスキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された マニュアル車： チェンジレバーがニュートラルの状態で、プッシュエンジンスイッチをOFFにせずにアクセスキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	プッシュエンジンスイッチをOFFにする、またはアクセスキーを車内にもどす

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	3回	 (黄色点滅)	キーレスアクセス& プッシュスタート表示灯 プッシュエンジンスイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者がアクセスキーを持ち出した	アクセスキーを車内にもどす
1回	連続音 (10秒間)	 (黄色点滅)	キーレスアクセス& プッシュスタート表示灯 プッシュエンジンスイッチをOFFにせずに、アクセスキーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	プッシュエンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する
1回	—	 (15秒間 黄色点滅)	キーレスアクセス& プッシュスタート表示灯 アクセスキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	アクセスキーを携帯してエンジンを始動する
断続吹鳴 (7秒間)	—	 (黄色点滅)	キーレスアクセス& プッシュスタート表示灯 正規のアクセスキーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内にアクセスキーがあるか確認する
1回	—	 (15秒間 黄色点滅)	キーレスアクセス& プッシュスタート表示灯 アクセスキーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 290)

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	—	 (15 秒間緑色に早点滅)	キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯 ステアリングロックが解除できなかった	ステアリングロックを解除する (→P. 151)
1回	—	 (60 秒間黄色点滅)	キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯 プッシュエンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら、アクセスキーでプッシュエンジンスイッチにふれる (→P. 337)

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

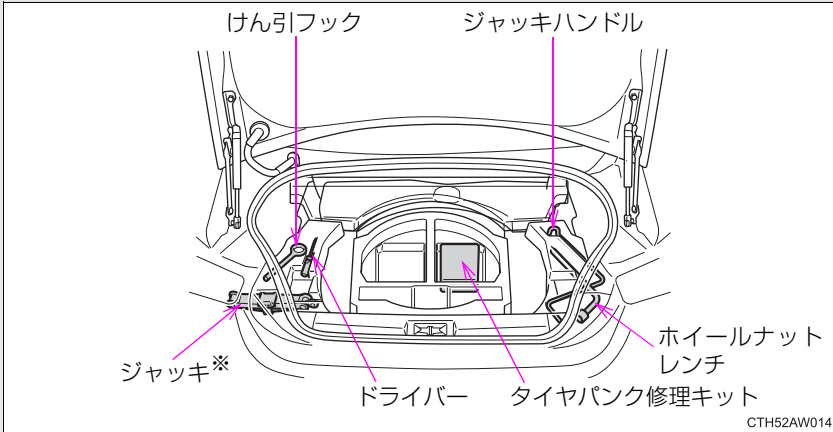
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク修理キットでは応急修理できない場合があります。(→P. 320)

タイヤパンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、スバル販売店にご相談ください。タイヤパンク修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

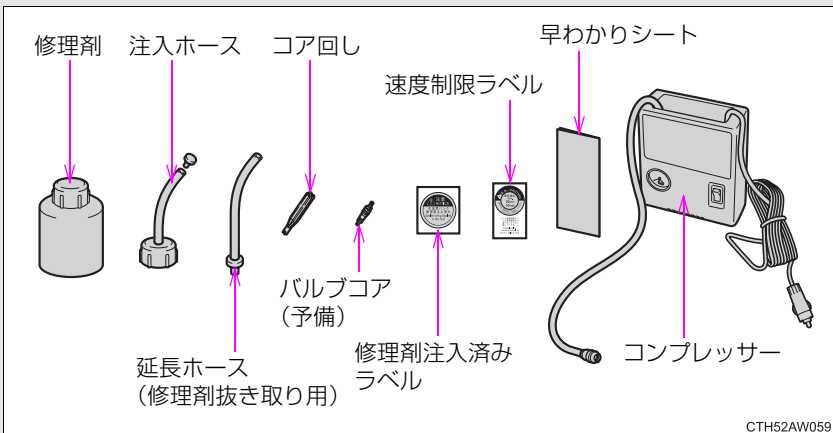
- 地面が固く平らな場所に移動する
- 駐車ブレーキをかける
- オートマチック車はセレクトレバーを P に入れる
- マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルにする
- エンジンを止める
- 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる

■ タイヤパンク修理キット、工具およびジャッキ位置

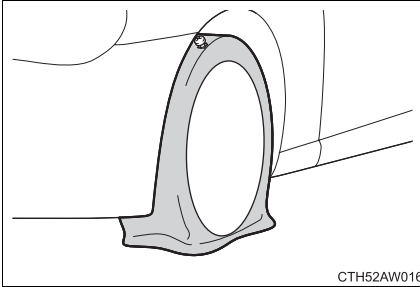


※：ジャッキの使い方（→P. 264）

■ タイヤパンク修理キットの内容



応急修理する前に



応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する

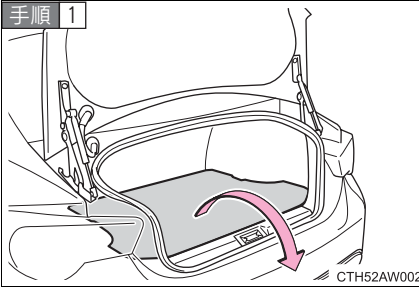
- ・ タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- ・ パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■ 以下のときは、タイヤパンク修理キットでは応急修理できません。スバル販売店や JAF ロードサービスにご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき（修理剤 1 本につき、修理できるタイヤは 1 本です）
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 修理剤の有効期限がきれているとき

タイヤパンク修理キットの取り出し方

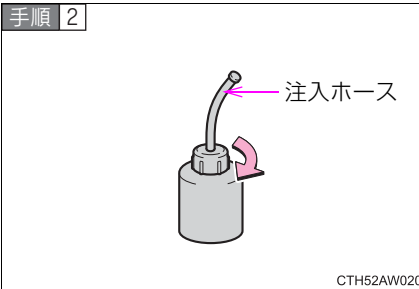


トランクマット装着車は、トランクマットを取りはずす

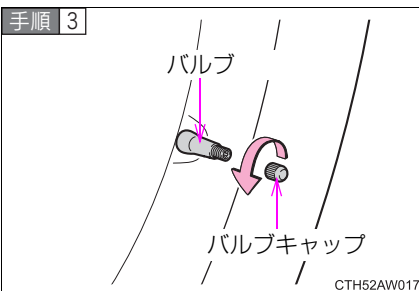
手順 2 タイヤパンク修理キットを取り出す

応急修理するときは

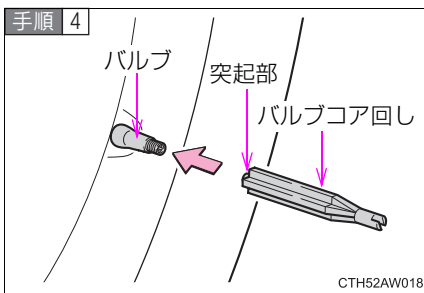
手順 1 修理剤ボトルを上下に数回振ってからキャップをはずす
内ぶたをはずさないでください。



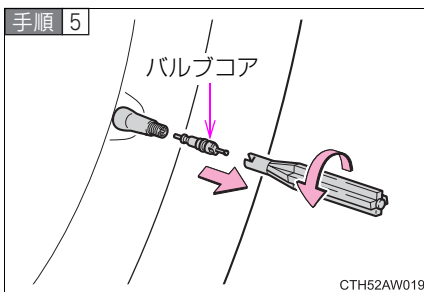
注入ホースを修理剤ボトルにねじ込んで接続する



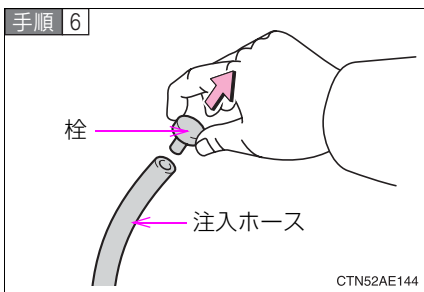
バルブからバルブキャップを取りはずす



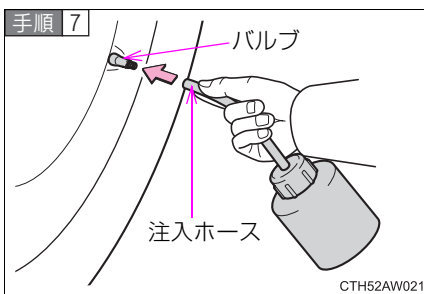
バルブコア回しの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く



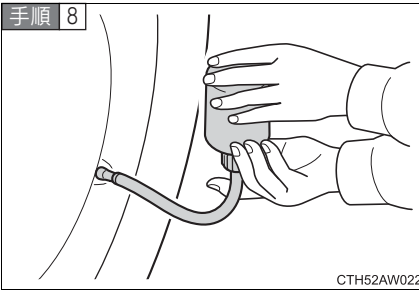
バルブコア回しでバルブコアを反時計回りにまわして抜き取る



注入ホースから栓を取りはずす



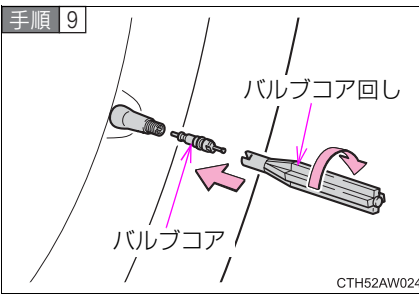
注入ホースをバルブに差し込む



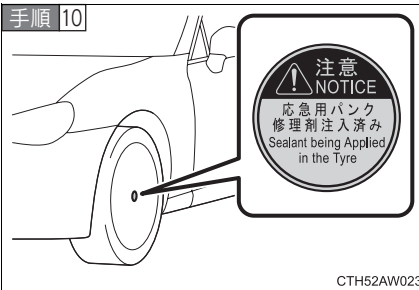
修理剤をタイヤ内に注入する

ボトル内の修理剤はすべて注入してください。

空ボトルは修理剤の抜き取りに使用しますので、スバル販売店までお持ちください。

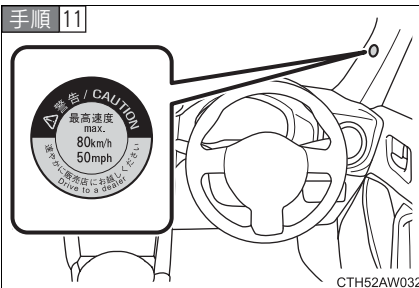


バルブから注入ホースを取りはずし、バルブコア回しでバルブコアを時計回りにまわしてバルブにしっかりとねじ込む

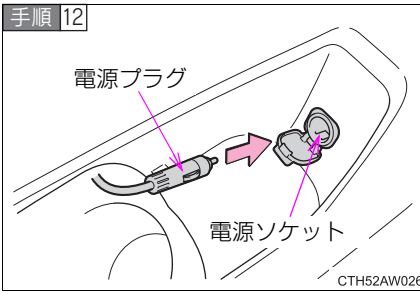


修理剤注入済みラベルを貼る

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、スバル販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク修理剤注入済であることを必ずお伝えください。



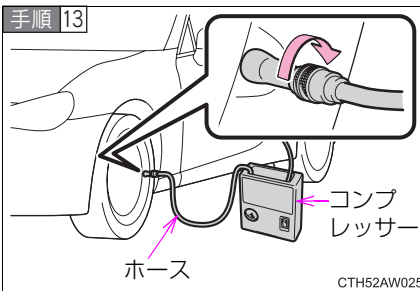
速度制限ラベルを車内に貼る



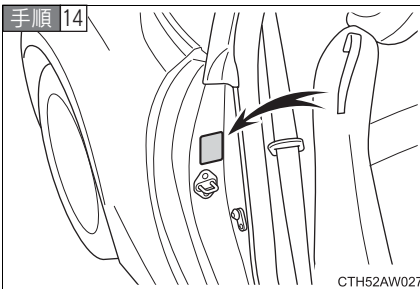
電源プラグを電源ソケットに差し込む (→P. 235)

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外: エンジンスイッチを“ACC” にしてください。

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車: プッシュエンジンスイッチをアクセサリモードにしてください。

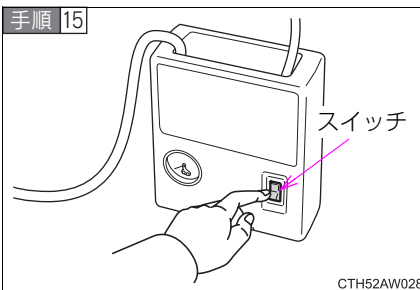


コンプレッサーのホースをバルブにねじ込んで接続する



タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 257)



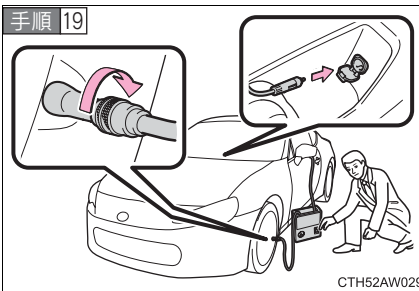
コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで空気を充填する

手順 16 圧力計を確認しながら指定空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にする

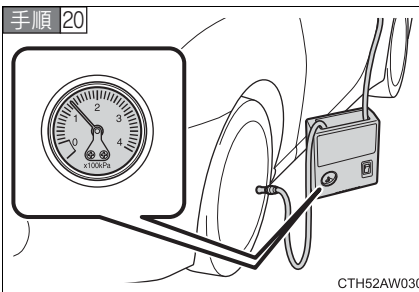
10 分以内に指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。スバル販売店にご連絡ください。

手順 17 バルブからコンプレッサーのホースを取りはずし、電源ソケットから電源プラグを取りはずす

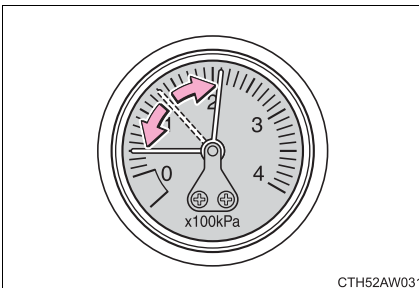
手順 18 タイヤ内の修理剤を均等に広げるために、直ちに 10 分間走行する



走行後、再度コンプレッサーを接続する



圧力計で空気圧を確認する



空気圧が 130 kPa 以上の場合は、指定空気圧まで空気を充填する

空気圧が 130 kPa 未満の場合は、応急修理できません。スバル販売店にご連絡ください。

手順 21 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してスバル販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはスバル販売店にご相談ください。

 **知識**

■ **応急修理後のタイヤのバルブについて**

タイヤパンク修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ **タイヤパンク修理キットの点検について**

パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。タイヤパンク修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ **タイヤパンク修理キットについて**

- タイヤパンク修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク修理剤には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはスバル販売店にご相談ください。
- パンク修理剤ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク修理剤の交換は、スバル販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰り返し使用できます。
- 外気温度が -40℃以上のときに使用できます。
- タイヤパンク修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボディに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- タイヤパンク修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

 **警告****■ タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態でタイヤパンク修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ タイヤパンク修理キットについて

- タイヤパンク修理キットはトランク内に収納してください。急ブレーキ時などにタイヤパンク修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる
- 空気がタイヤに残っている状態でバルブコア回しを使用すると、バルブコアが飛び出すおそれがあります。
- 注入ホースを取り付けた状態でボトルを振ると、修理剤が飛び出すおそれがあります。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

 **警告**

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク修理剤が飛散したりするおそれがあります。
- パンク修理剤注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク修理剤が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順通りに行わないとパンク修理剤が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるのでタイヤパンク修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。
- タイヤパンク修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- タイヤパンク修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分はとくに熱くなるので触れないでください。
- 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止してください。再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 **警告****■ 修理剤を均等に広げるための運転について**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・ 再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするときは**

- タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、タイヤパンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- バルブコアを汚れた地面や砂地に置かないでください。
- 修理剤の内ぶたを取りはずさないでください。
- バルブコア回しをねじ込むときは手で回してください。工具を使用したりすると、破損するおそれがあります。

 **注意**

■ **タイヤパンク修理キットについて**

- タイヤパンク修理キットはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- タイヤパンク修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- タイヤパンク修理キットはトランク内に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 145, 154）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 145, 154）にしたがって、エンジンをかけてください。
- イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）に異常がある可能性があります。（→P. 89）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリー上がりの可能性があります。（→P. 340）
- バッテリー端子がゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 332）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリー端子がはずれている可能性があります。
- バッテリー上がりの可能性があります。(→P. 340)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
(キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、スバル販売店にご連絡ください。

緊急始動機能 (キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

オートマチック車

- 手順 1 駐車ブレーキがかかっていることを確認する
- 手順 2 セレクトレバーがPの位置にあることを確認する
- 手順 3 プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードにする
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでプッシュエンジンスイッチを約 15 秒以上押しつづける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

マニュアル車

- 手順 1 駐車ブレーキがかかっていることを確認する
- 手順 2 チェンジレバーがニュートラルであることを確認する
- 手順 3 プッシュエンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏みながら、約 15 秒間プッシュエンジンスイッチを押し続ける

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムの故障が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でセレクトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（セレクトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でセレクトレバーをシフトすることができます。

手順 1 駐車ブレーキをかける

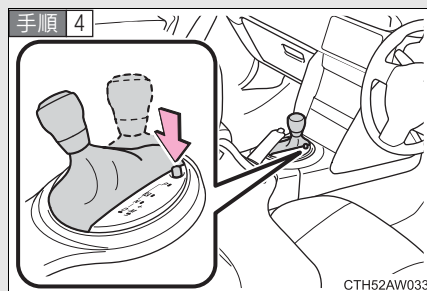
手順 2 キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチを“ACC”にする

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



シフトロック固定解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーまたは残りのキーから、スバル販売店でスバル純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 34)

5-2. 緊急時の対処法

アクセスキーが正常に働かないときは（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）

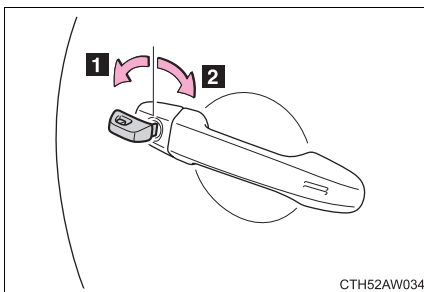
アクセスキーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 44）、アクセスキーの電池が切れたときは、キーレスアクセス&プッシュスタートと電波式リモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠、トランクの解錠

メカニカルキー（→P. 35）を使って次の操作ができます。

盗難警報装置★設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴ります。
（→P. 91）

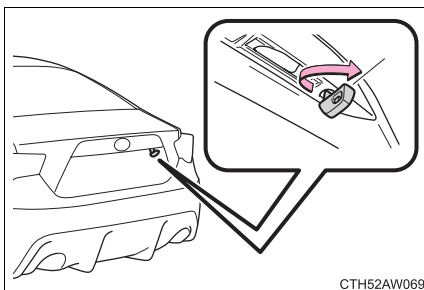
ドア



1 運転席ドア解錠

2 運転席ドア施錠

トランク



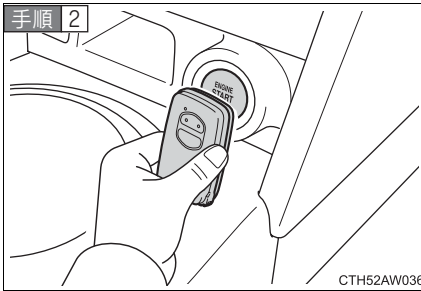
メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

エンジン始動の方法

オートマチック車

手順 1 セレクトレバーがPの状態ではブレーキペダルをしっかりと踏む



手順 2

アクセスキーのスバルエンブレム面で、プッシュエンジンスイッチにふれる

アクセスキーを検知するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でキーレスアクセス&プッシュスタートをキャンセルしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。

ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)

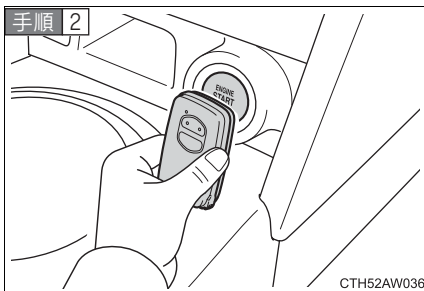
手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯が緑色に点灯していることを確認する

手順 4 プッシュエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

マニュアル車

手順 1 チェンジレバーがニュートラルの状態クラッチペダルをしっかりと踏む



アクセスキーのスバルエンブレム面で、プッシュエンジンスイッチにふれる

アクセスキーを検知するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でキーレスアクセス&プッシュスタートをキャンセルしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。

クラッチペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)

手順 3 クラッチペダルをしっかりと踏み込んで、キーレスアクセス&プッシュスタート表示灯が緑色に点灯していることを確認する

手順 4 プッシュエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止の仕方**オートマチック車**

通常のエンジン停止の仕方と同様、セレクトレバーを P にしてプッシュエンジンスイッチを押します。

マニュアル車

通常のエンジン停止の仕方と同様、チェンジレバーをニュートラルにしてプッシュエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

前記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 290)

■ 盗難警報装置★について

メカニカルキーで施錠した場合、盗難警報装置が設定されません。なお、盗難警報装置設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P. 91)

■ キーレスアクセス&プッシュスタートにてドアの施錠・解錠ができないときは

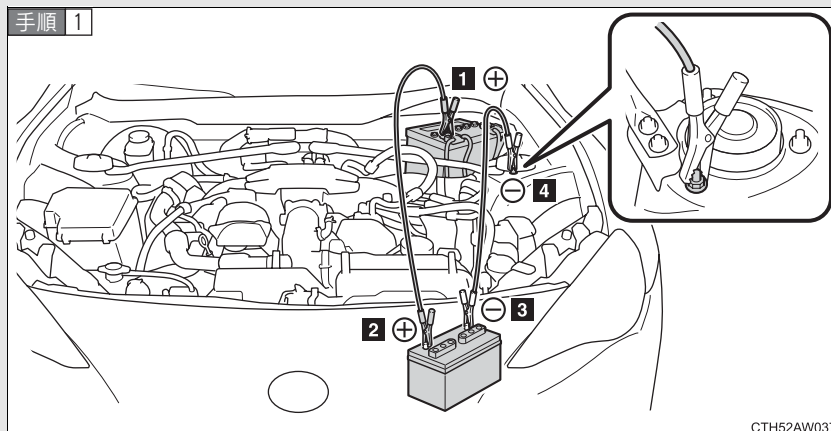
メカニカルキーまたは、電波式リモコンでドアの施錠・解錠をしてください。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

バッテリーが上がったときは

バッテリーが上がった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、プッシュエンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、プッシュエンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにスバル販売店で点検を受けてください。

 **知識****■ バッテリー上がり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリー上がりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがはずされたり、バッテリーが上がってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーが上がったときはスバル販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーが上がってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリーが上がったときの留意事項（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）

- バッテリーが上がった直後はキーレスアクセス&プッシュスタートによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、電波式リモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- バッテリーが上がったあとの、最初のエンジン始動はできないことがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にプッシュエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー上がり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーが上がる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリー上がり前のプッシュエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

 **警告****■ バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱、端子、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

■ 車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ドアを閉めるときは

ドアガラスを内側に倒すように力を加えながらゆっくりと閉めてください。
ドア連動ドアガラス開閉機能が作動しないため、ドアガラスと車体が干渉して傷付き、ドアガラスが割れるおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

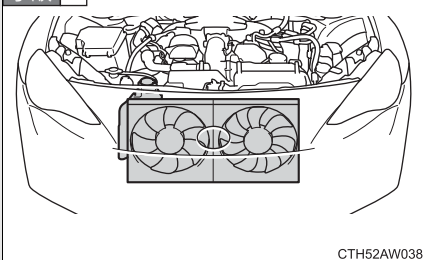
ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：

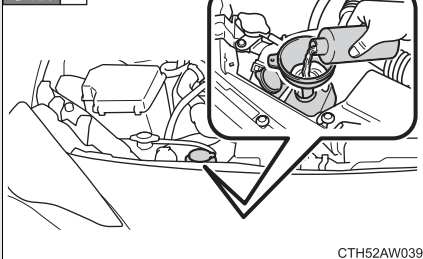
すぐにエンジンを止めて、スバル販売店に連絡する

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちは冷却水注入口を開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

5-2. 緊急時の対処法

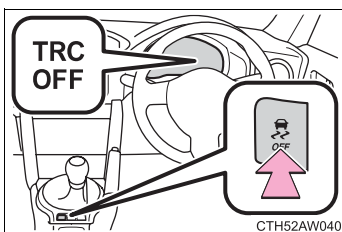
スタックしたときは


ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

- 手順 1 駐車ブレーキをかけ、オートマチック車はセレクトレバーを P、マニュアル車はチェンジレバーをニュートラル にして、エンジンを停止する
- 手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く
- 手順 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 手順 4 エンジンを再始動する
- 手順 5 オートマチック車はセレクトレバーを D または R、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に入れ、駐車ブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいときは



 を押してTRCをOFFにしてください。
(→P. 193)

 **警告****■ 脱出するときは**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ セレクトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

